

# 沖縄のキャラクタービジネスプロジェクト

株式会社南西産業 代表取締役社長 畠中 敏成  
株式会社マブヤー 企画 代表取締役



今回マブヤープロジェクトは、沖縄総合事務局沖縄振興功績者に選出して頂きました。

2008年に弊社の様な零細企業が地域の様々な皆様と共に琉神マブヤーというキャラクターを創出し、多くの企業の方々に協力を賜り、沖縄の子供を中心に多くのサポーターの皆様を支えられてムーブメントを起こしています。

当初二人の話から始まった企画がいつの間にか多くの人を巻き込んで進んでいます。

この様なムーブメントはどこから生まれてくるのでしょうか？

世の中には、多くの人が沢山の企画を進めています、ほんの一部の企画しか認知されずに流れていきます。

ビジネスの世界には、絶対的な法則は無いと思いますが、そ

の時代にマッチングした企画だけが手法を間違わなければ認知されている様な気がしています。

弊社の様な零細企業にとって生き残るためには、ニーズへのマッチングと変革、オリジナリティへの先行投資は生命線だと思います。

今回のマブヤープロジェクトの成功には幾つかのポイントがあります。

一つ目に、県内企業もしくは様々な個人による得意分野での持ち寄り企画にする事により、沖縄に特化した彫り込みが好循環したこと。

二つ目に、全体の企画の連動性を重視して重層的なサプライズを仕掛け続けられたこと。

三つ目に、沖縄というエリアの中で、企画のステージを意識して小さな目標を設定し、そのステージをクリア出来ると次のステージを目指すという好循環のサイクルが出来たこと。

勿論多くの方々に支えられ、多くのサポーターにご支援頂き続けていることが大前提ではあるのですが、継続のためのビジ

ネスを否定しないこと、沖縄のスケールと現状の沖縄の力を正確に認識することが企画のスタートだと思っています。

時代が変わり、特にコンピューターの発達により情報の発信の方法が近年多様化しています。

しかし一方で、付加価値を足していく為に仕掛ける場所としての東京は厳然と存在しています。

様々な情報発信の方法は選肢肢が間違いなく増えていますが、付加価値の評価、どのターゲットにどの様な価値をどの様な手段で届けるか？という知恵の部分がより重要になってきています。

その為にも自社のスケールや地域のスケール、地域のスキル、コディネイトするための環境、プロデュース能力、総合的な地域の方向性を見据える必要性があると思います。

今回マブヤープロジェクトでは、劇場版のコンテンツを制作しています。

沖縄という一地域のヒーローが全国向けの映画を制作する企画など、普通であれば前例が

ないという一言で済まされるような物かもしれませんが、二つ目の前の目標をクリアして次のステージを目指し、一年半もの時間を掛けて先行投資を続け、様々な企業と連携して目の前の問題をクリアしながら進んできました。

当然、現状のやり方が理想的とも考えていないのですが、理想論の絵は持ちながらも現実的な選択をする事で、また次のステージが始まってくれると思っています。

現状の沖縄のスケール、スキル、方向性を認識しつつ次のステージに上がるための努力が次世代の沖縄の子供達、青年達の良き前例もしくは検討課題になつてくれたら嬉しいし、今回の企画は、沖縄の失つていく物に対する気づきや子供が沖縄を知るための最初の階段であり、沖縄の原風景を思い出してもらい、沖縄の文化や生き方を考えてもらえればという挑戦でもあると考えています。

まだまだ未熟者ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。